



Title	鈴木広和教授略歴および研究業績（抄）
Author(s)	
Citation	ハンガリー研究. 2025, 3, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/100411">https://doi.org/10.18910/100411</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 鈴木広和教授略歴および研究業績（抄）

### 略歴

- 1985年3月 東京大学文学部西洋史学専修課程卒業
- 1995年3月 東京大学大学院人文科学研究科  
　　西洋史学専攻博士課程単位取得退学
- 1995年4月 大阪外国語大学外国語学部講師
- 1999年1月 大阪外国語大学外国語学部助教授
- 2007年10月 大阪大学大学院人間科学研究科准教授
- 2016年4月 大阪大学大学院人間科学研究科  
　　附属未来共創センター准教授
- 2018年4月 大阪大学大学院言語文化研究科准教授
- 2019年4月 大阪大学大学院言語文化研究科教授
- 2022年4月 大阪大学大学院人文学研究科教授
- 2025年3月 定年により退職

## 研究業績（抄）

### 著書（共著）

1. 南塚信吾（編）『ドナウ・ヨーロッパ史』山川出版社、1999年。
2. 秋田茂・桃木至朗（編）『歴史学のフロンティア』大阪大学出版会、2008年。

### 学術論文

1. 「ハンガリー王国成立に関する諸問題について —イシュトヴァーン法令集をもとに—」『東欧史研究』9、1986年、56–80頁。
2. 「14世紀ハンガリーの国王と貴族 — アンジュー朝による『ホノル』政策の検討 —」『東欧史研究』15、1992年、2–27頁。
3. 「14世紀ハンガリーの国王収入についての一考察 — 鉱山と貨幣 —」樺山紘一（編）『西洋中世像の革新』刀水書房、1995年、119–137頁。
4. 「ハンガリー王国の再編」『岩波講座世界歴史8 ヨーロッパの成長 11–15世紀』岩波書店、1998年、79–99頁。
5. 「中世ハンガリーのクマン人とラースロー4世」木村尚三郎（編）『学問への旅』山川出版社、2000年、78–96頁。
6. 「ルネサンス期ハンガリー王国の宮廷」高山博・池上俊一（編）『宮廷と広場』刀水書房、2002年、89–105頁。
7. 「ケーヤイの著作『ゲスタ』におけるナティオ — スューチ説の批判的検討(1) —」『ハンガリー研究』1、2021年、107–130頁。
8. 「中世ハンガリー王国における文書発給機関としての教会組織 — 公証教会機関」高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的統合体』東京大学出版会、2022年、333–358頁。

### 翻訳（共訳）

1. ニーデルハウゼル『総覧 東欧ロシア史学史』北海道大学出版会、2013年。